遠州流挿花百瓶図式 下

334

赤白牡丹

本両替町

瑳琢

716.2
.T4
#1289

つるうめもどき　きく

麻布廣尾、
女　瀧埜

すゝき野菊

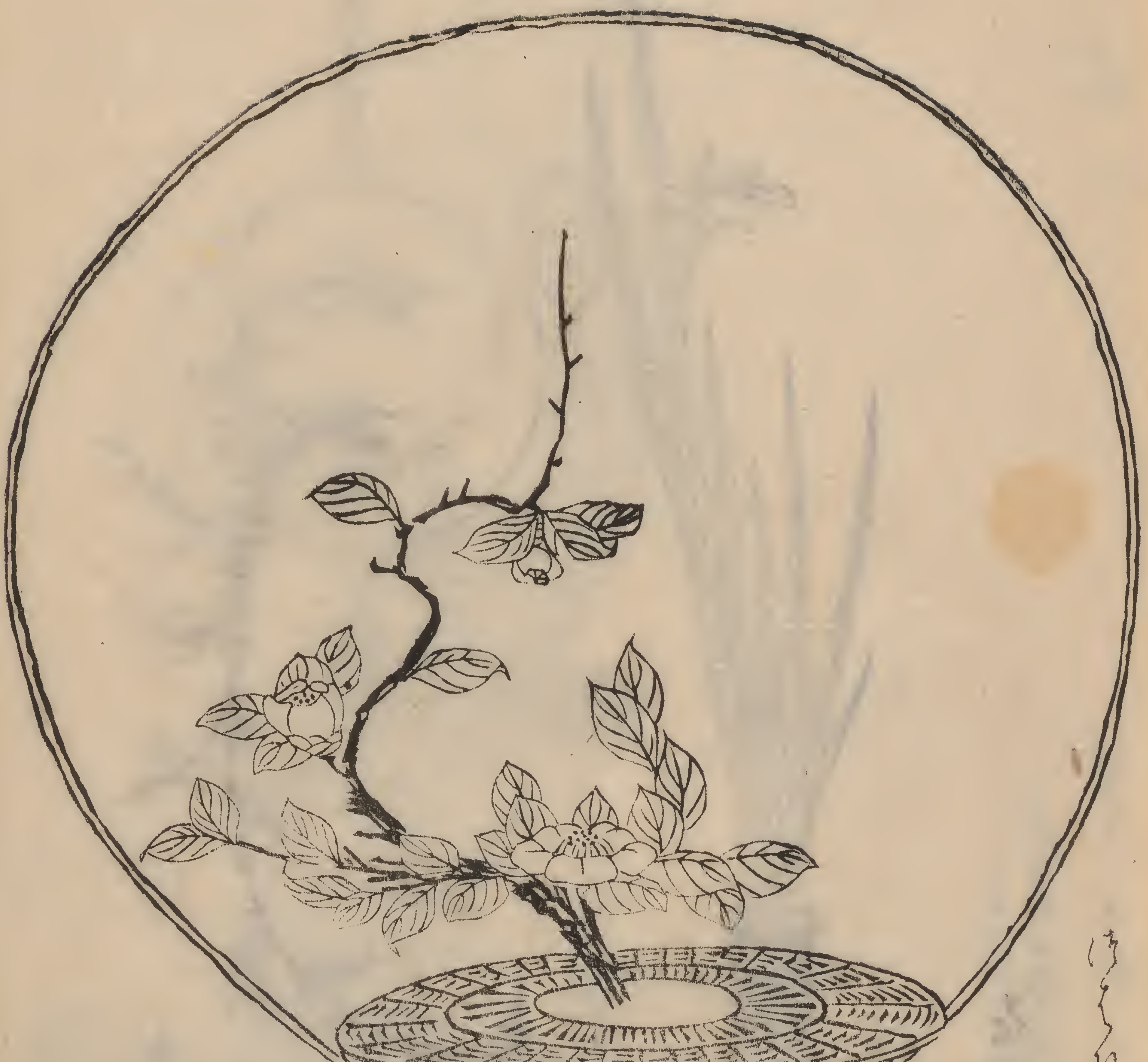
甲州石和宿
如光庵一左右

馬蘭

日本橋
木原店
一晴

朝鮮茨

本白銀町川岸
一路



はなされ

勢州
津　一貴

なよ川むめ
南新堀
一竹

花阿やめ
下谷金杉四丁目
女 馬蓮

藜芦 五株
浅艸森田町代地
日々菴一洞

だんどく

深川
中川町
江亭

柳 椿

房州
布良
一朝

赤桃白桃

上毛前橋
竪町　一仙

さゝめへし　を　あふひ

上毛前橋
桒木町　蒼山

さなう里

伊勢町 釆川岸

楚郷

河骨

小田原町 魚川岸

一藤

糸薄 小菊

桔梗 荊萱 女郎花

上毛前橋 松屋町

揚柳

白赤黄菊

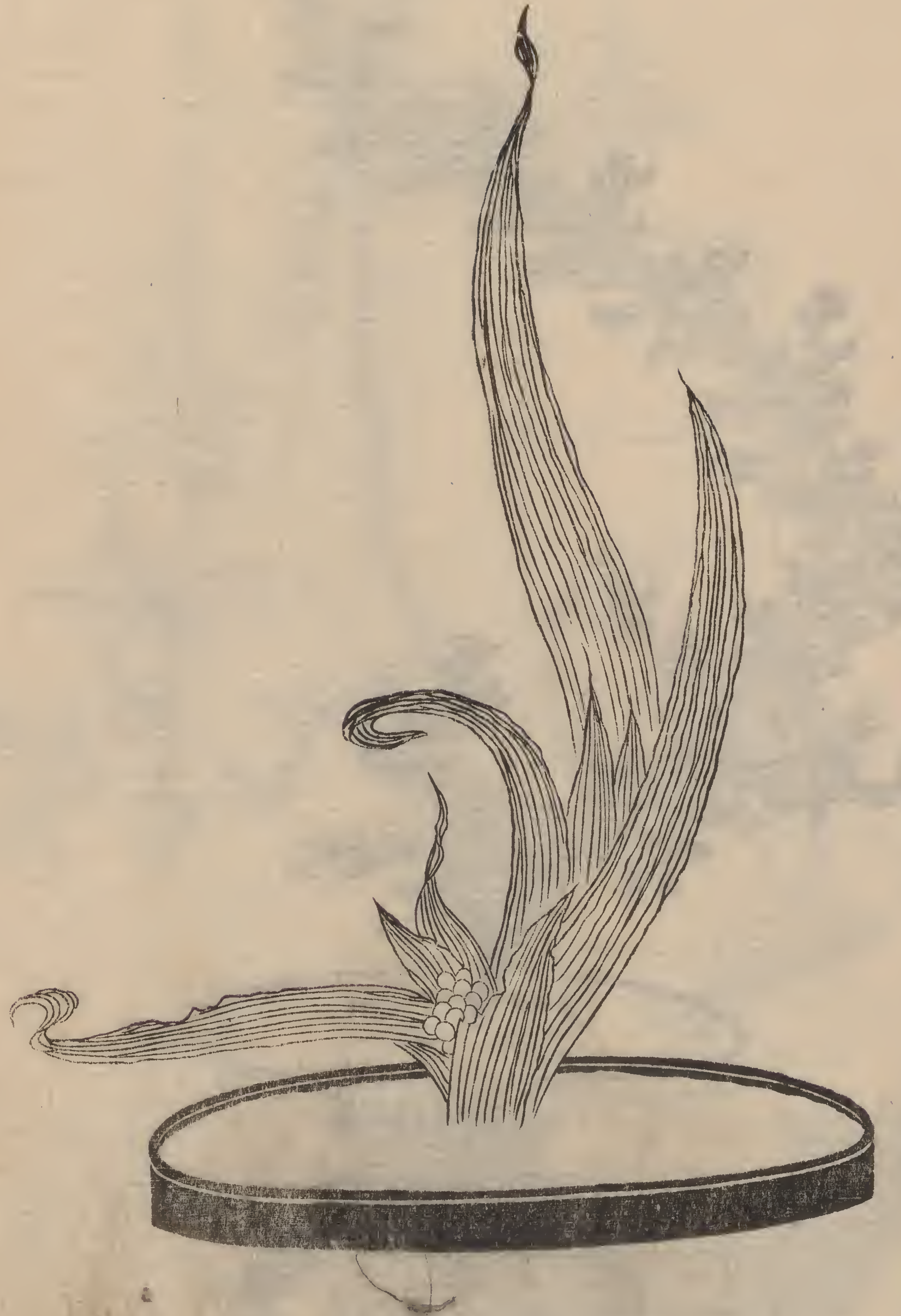
伊勢町米川岸
一豊

南瓜の花

本所
小名木川 茶夫

紫陽花

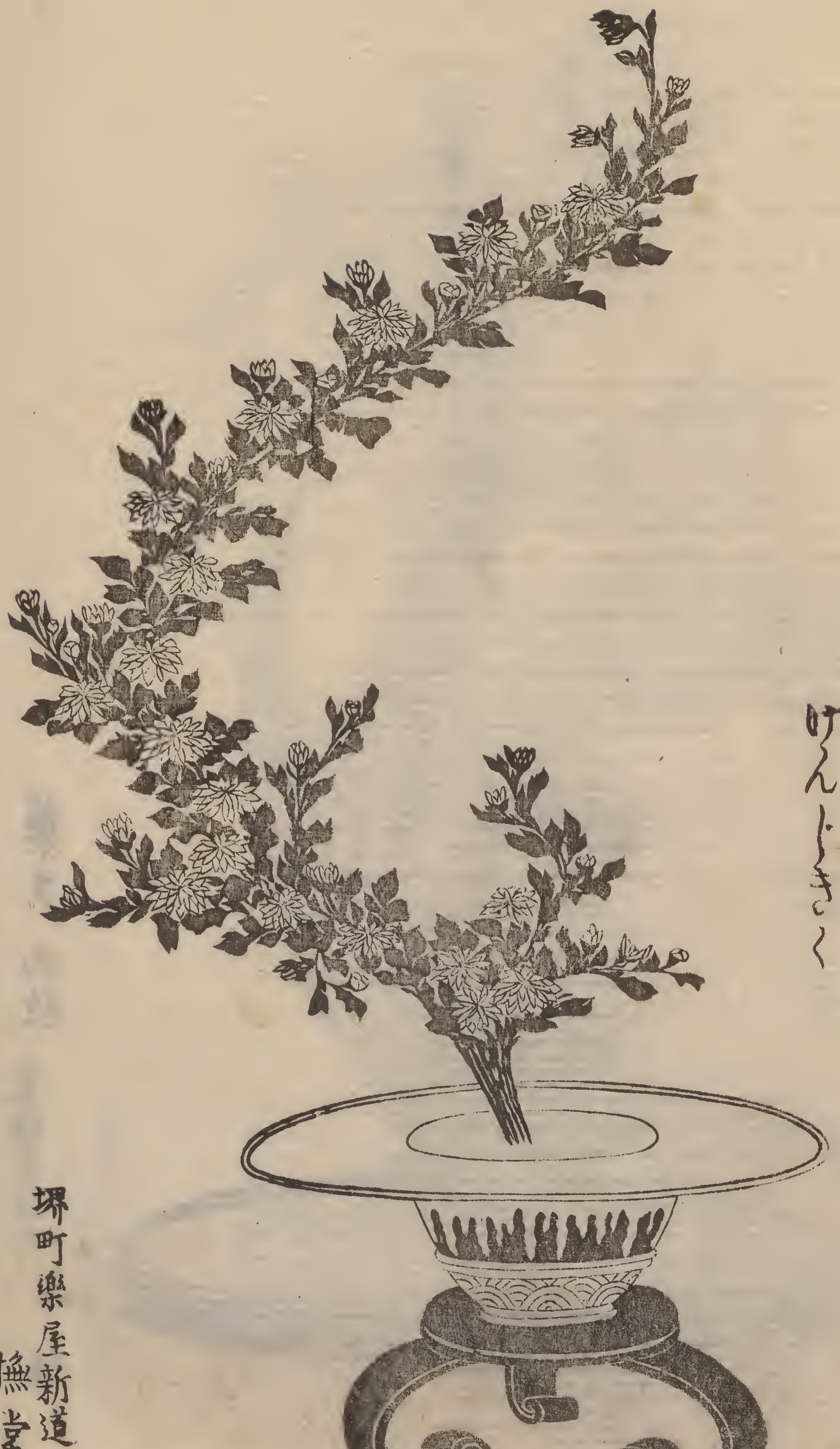
上毛前橋
竪町 柳青



藜芦九枚

日本橋音羽町 一保

けんじきく



堺町樂屋新道
撫掌

白梅 椿 杜若

本両替町
珖琅

南天

上毛前橋
諏訪町
南山

柳白梅水僊

常州下館
豊義

ふじの花

亀井戸境橋
東樹

烏扇　三株

神田紺屋町二丁目
一猪

大菊 小菊

本白銀町
川岸
一曲

馬蘭 十三枚

鎌倉雪ノ下
一英

芦 杜若

神田永富町二丁目 登柳

芦 河骨

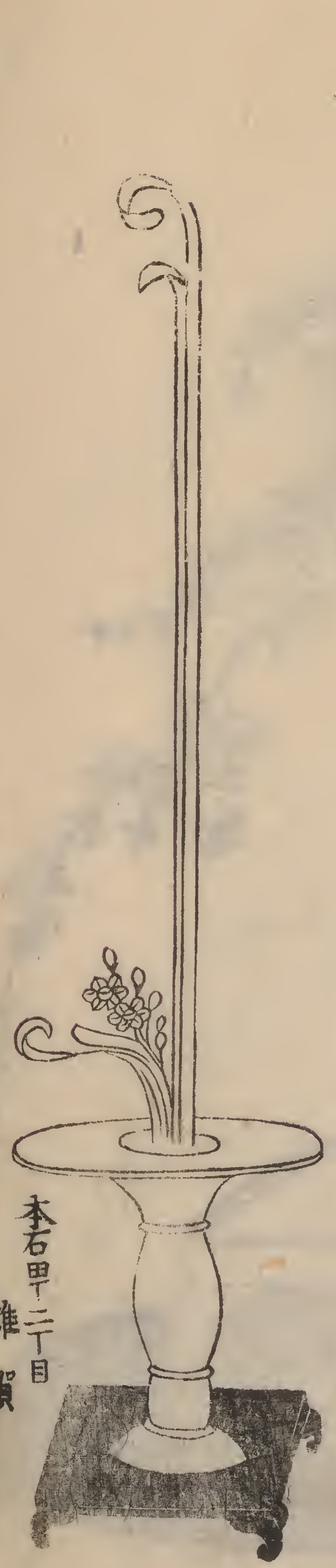
本所中ノ郷 五陵

枝垂櫻 杜若

本石町二丁目 蘭丈

紅梅
白玉椿

呉服町　一群



水仙一もと

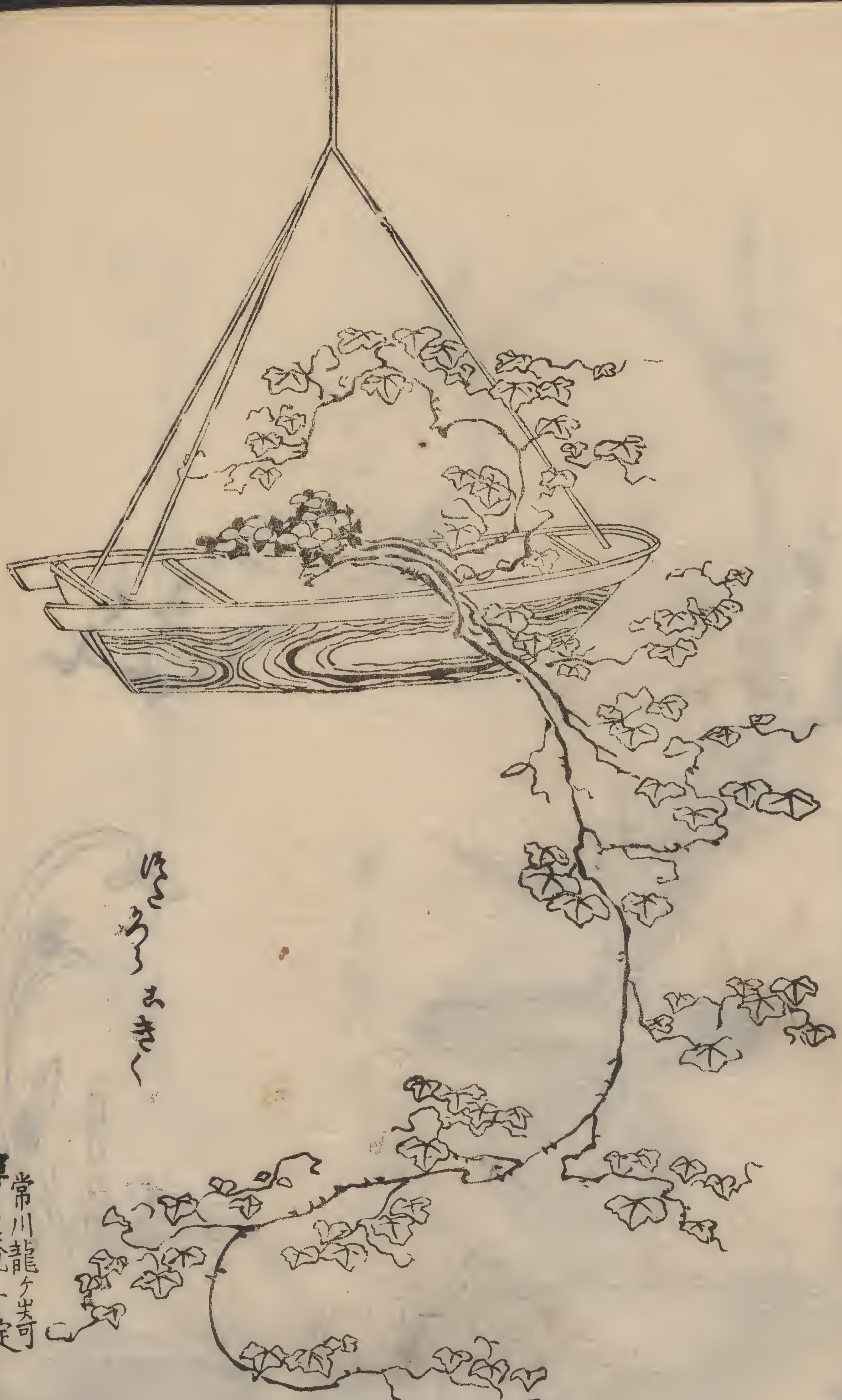
本石町二丁目
雄賀

水仙五もと

本小田原町
うとう
一魚

白ちん

伊勢町
米川岸
一沙



はころゝまきく

常川龍ヶ崎
暉月菴一掟

寒菊

中橋南槇町
秋風

馬蘭十一枚

上毛前橋竪町
一和

海棠花

上毛前橋竪町
馬紅

水仙五ミち

浅艸森田町代地
一詞

杜若 二のく

日本橋南二丁目 少年女 榮里

牡丹

上毛前橋竪町 ぬ あか

小きく

小網町三丁目 古青

鼓子花

新吉原中丁
野鶴

紫苑三株

常州下官
露寒

葉鶏頭 小菊

上毛前橋
竪町 一楓

えびし もみぢかきつばた

上毛前橋 竪町 一樹

小舟町三丁目 如陽庵 一望

小菊 杜若

本両替町 如松

やまき　つゝじ

新場
湖秋

本所
小名木川　宗賀

小菊

馬蘭　九枚

上毛前橋竪町
一慶

色ゟん

大坂町曲り川岸
一琴

赤小菊黄小菊

葺屋町
川岸 秋賀

白玉椿

両替町 巴陵

白梅

小舟町三丁目 一樓

水僊 十七本

如月菴 愚息 一太郎

跋

唐山は瓶華とて。我邦の挿花に等しく。瓶華を翫ぶる事。和漢同じ事ぞとはるかし。千草萬花。天地自然の造化にして。栄枯其時を違へず。一枝一瓶。深山澤池の光景ありて。變化自在に模して。掛花は勢ひ。雲に起るが如く。置花は形ち。龍の昇るに似たり。靈叉飛容

乃術に学びざりしく。席上自ら佳境を
ましめ。寰中忽ち仙都に至る。實に活花は
風流なるべし。頃日如月庵の主。百瓶圖
を携へ来りて。予に跋をこふ。之を閲るに。
陰陽の體備り。表裏の圖明らかにして。
枝葉盤茂たりといへども。初心の者に見
易く。花形動くがごとく。微妙いふべからず。
庵の主ハ素より此道にこゝろを寄る事

年あり。故春草菴乃門に遊んで。秘
授奥旨を究め。自ら社盟を結んで
一太坊と呼ぶ。嗚呼可謂出藍於
才子。余と交る一雋知己。今頻りに
跋を需むといへども。戯友烏馬老乃序
文あり。新たに筆をたらさんや。
因て以て其微志を述ぶる。這箇
揷花百瓶圖の跋に換ふと云爾。

維時文化乙丑年南呂

江戸市隠　游戯道人選

瓶に花さゝせ給ふあそびハいともくいにしへより折にふれ侍り
ければ専ら玩べるものなり。東山殿の頃よりぞ花の道専ら
らきゝね世りけりしよりむかふさまの枝葉の態きびしく立てしも。
えらきが上手むろこりて今此代にいたりてハ侍りしかれず。
くれゞしのうしおのかくかしこきをばひきつにすゝめつゝ。
おのがりしあるやまのみなのうちをうつして心はあぐさむる
まふみ花をおふき。おのれもやくやくけ業にあらざし深
くていとゞ浮たる流をすさ伎なれど。春毎茶弁のうしにきる

おひつぎ人はしつゞくふうきつきみちてあらねど。才ま
なれなつかしの跡おひくいとをしたる業なれ。おのまだおぼい
ハあらしまつは今にしつたへ侍りしかん洲ころおぼい心の成垣
をおしめつゝかくよまりきりひのすね仮し斗ふかゞ捨らば中
みもまぐきてめでたくようちそうはまちがひかくそちぞ。手の
はふおれきしめおきるよきい見そまくの叙よあまりぬる。紙
人くの見給ひていつゞふ志言のむ言うつなさ世ゝくの書を
もとこの之版よ元まつるとも志いて捨くのこのみ人はおもし
ふくる拾きをえ志ゝて桜木にのおすまくへちらぬ。ちを

ゆめく高き人くよもこへまいらせんをみいあくへ。おのかそへ
子等におゐくつゝへて。一つの板乃いやさまへすさすへいや
たぎくりしきざる陰め。世は志いへしくとうしのいゝふ言
し
とるありぬべく。ちからそへ子等にあくうて。宇ひまる仮
の料みたちりしのせんとなひそてくる

まめなるよこそ

文化みつとせやいふとしの秋のふみを

如皐庵のあるじ馬むがいふ

馬

東都
他邦 門葉子住居 次第不同

浅艸森田町代地	日々庵一洞
日本橋南貳丁目西新道	如生庵一樂
芝神明門前町	如竹庵一松
本白銀町壹丁目	如櫻庵一帒
甲州石和宿	如光庵一左右
浅草西廣小路	如秋庵一補
本所猿江町	花月庵一凰
常州竜ヶ崎	暉月庵一掟
小舟町三丁目	如陽庵一望
本所五ッ目御假屋橋向	如春庵一草

古流 正風遠州流

生花ひとりけいこ 前後編 全二冊
師匠なくして花をいけ習ふことを難とせず早く上下の位傳あるを圖にあらはし論ず

挿花ひとりけいこ 米一馬撰 小本一冊
四季の挿花形ちの秘傳を揃へ出し此書にて初心の人といへども習ひ覚えのはやきこのせかり

同 衣之香 同撰 全四冊
四季の挿花百瓶余りを図し出しひとりけいこ口傳抄にて三百余合せ見るべし

同附録口傳抄 同撰 全一冊
此書はひとりけいこにおける口傳の奥義いけ花の要のことに記し之いれひとりけいこに合せ見るべし

同挿花百瓶圖 馬丈撰 全二冊
四季の挿花百瓶を撰し圖

文化三丙寅春正月

東都書林 日本橋南二丁目 野田七兵衛
仝所 小林新兵衛 板